

# やまぐちっ子学力向上だより

第140号 R5.12.11

山口県教育庁義務教育課

## 山口県学力定着状況確認問題の調査結果について

10月16日を基準日として実施された、山口県学力定着状況確認問題の調査結果を公表しました。各校種及び各教科の平均正答率は次の通りです。

### ◆小学校平均正答率

	国語	算数
第5学年	51.8%	54.2%
第6学年	61.9%	55.6%

### ◆中学校平均正答率

	国語	数学	英語
第1学年	57.0%	57.0%	
第2学年	64.1%	54.6%	48.6%

調査結果から、各設問の正答率だけを見て成果と課題を把握するのではなく、子どもたちの誤答の状況をしっかりと分析して手立てを講じていきたいと思います。

### 誤答を分析するとは…

子どもの実際の誤答を基に、その誤答をした子どもが、「何が分かっている、何が分かっているのか」「何ができて、何ができないのか」等を詳細にみていくこと。

例えば、小学校5年生国語の条件に沿って記述する問題では、以下のように、学校によって誤答の状況が異なります。

#### 問題

焼きぬきかまぼこのひみつについて、  
〈条件〉に合わせて書きましょう。

〈条件〉

①【インタビューのメモ】の〈おいしくつくるためのくふう〉〈えい生面のくふう〉の両方から言葉や文を取り上げて書くこと。

②聞いたことを相手に伝える表現で書くこと。

	A学校	B学校	C学校
条件① 書いている	12人	32人	19人
条件① 書いていない	17人	5人	3人
条件② 書いている	3人	12人	5人
条件② 書いていない	26人	25人	17人

二つのメモから言葉や文を取り上げることに課題をもっている子どもが多くいるA学校、聞いたことを相手に伝える表現ができれば正答になる子どもが多くいるB学校やC学校というように、学校によって誤答の状況が異なります。各学校で、自校の子どもの誤答を分析することが重要です。そうすることで、効果的な誤答の状況に応じた手立てが明らかになります。

なお、県全体の詳細な結果や、誤答の状況に応じた手立ての案については、義務教育課Webページに掲載をしていますので、ご確認ください。

(右の二次元コード参照)



## 連載

授業力向上実践研究指定校の取組と成果③

### 東部中合い言葉「一緒にやりましょう！」～下関市立東部中学校～

授業力向上実践研究指定校の取組や成果を紹介する連載の3回目です。

11月15日（水）に下関市立東部中学校において、「学びが好きな生徒の育成～基礎・基本の定着と学ぶ力を高める指導の工夫～」を研修主題に掲げ、授業研究会が開催されました。東部中学校の特徴は、**ICTの活用と振り返りの工夫を重点目標**に研修を推進している点です。

研究会当日は、新田正幸教諭による2年数学科、林直子教諭による2年音楽科、柴田友美教諭による2年英語科の授業が公開されました。いずれの授業においても、協働学習の場面や学びの自覚につながる振り返りの場面において、ICTが効果的に活用されていました。重点目標を達成するために、東部中学校が**5つの考え方**（好奇心、持続性、柔軟性、楽観性、冒険心）を大切にしながら行った主な取組は以下の通りです。

1. 各教科における「ICT活用」事例の共有
2. 各教科における「振り返り」事例の共有
3. 授業づくりのひらめきにつなげる「ふらっと参観」の実施（小中連携）
4. やまぐちっ子学習プリントを使用した朝学習でのICT活用
5. やまぐちっ子学習プリント等を活用した補充学習（数学）の実施
6. ちりつもノート（自主学習）の充実
7. 授業担当者と指導助言者のきめ細かな連携



研修主任の柴田教諭の、「本研究指定を受け、合い言葉『一緒にやりましょう！』を大切にしながら、ICTの活用と振り返りの工夫を重点目標として取り組むことで、昨年度よりも子どもたちが基礎学力を身に付けることができている。私たち東部中全教職員は、その手ごたえを感じており、今後もこの取組を継続・発展させていきたいです。」という言葉が印象的でした。

## 連載

若手教員スキルアップ研修を生かして③

### 子どもの意欲を引き出す ～恩田小学校・勝谷先生～

8月の若手教員スキルアップ研修の成果を授業において発揮されている先生方を紹介する連載の3回目です。

宇部市立恩田小学校 勝谷由衣先生

4年 算数科 「組み合わせた形の面積」

ICTを活用したり具体物を用意したりするなど、丁寧な授業準備をされていました。また、考える視点を適切に助言するなど、様々な手立てが見られた授業でした。勝谷先生に、研修で学んだことをどのように活用したかをお聞きしました。

「他の方からの意見や指導者の先生からの助言で、教材に対する自分の見方が広がりました。今回の授業では、『大きさを比べる』という学習課題を設定できたことも、この研修で学んだ成果です。実際に授業をしてみて、子どもの視点に立った図形の提示方法や比較する活動によって、子どもたちが意欲的に学習に取り組むことができ、私自身も楽しく授業ができました。」

